

学校だより



丸森町立耕野小学校
平成30年6月14日
校長室から 第8号

「うつくしく」「かしこく」「しなやかに」 一人一人の「命輝く」耕野小学校

～ 六月や 白雲色を 磨ぎすまし 原 石鼎 ～

ふるさとを知り ふるさとに誇りをもって…

先日、郷土の歴史研究者である八島孝男さんが、「耕野小学校の子供たちに、ぜひ見せてほしい」と、学校に2枚の賞状を持って来てくださいました。

立派な額に入ったその賞状は、今から百数十年前のとても貴重なもので、耕野の歴史と文化のすばらしさを物語っています。

1枚目は、明治10年(1877年)の内国勸業博覧会という日本全国から農産物等を集めて、優れた品物を称えるという博覧会で、耕野の「生糸」が見事に選ばれた時の「褒賞状」でした。驚くべきことは、授与者として当時の内務卿「大久保利通」の名前が記載されていることです。本当に名誉ある賞だということが分かります。

2枚目は、明治23年(1890年)、同じく内国勸業博覧会で「白柿」が、「形状、風味共ニ佳良ナリ頗ル嘉ス可シ」と評され、優れた品物として再度選ばれた時の「褒賞状」でした。耕野の柿は、現在も特産物として有名です。学校でも生活科や総合的な学習の時間に、柿の収穫や干し柿づくり、干し柿販売等に取り組んでいます。

この2枚の賞状は、一昨日の朝会で子供たちに紹介しました。とても貴重な賞状であることを知った子供たちに、「八島さんは、なぜこの2枚の賞状を、みんなに見せたかったのでしょうか。八島さんの思いを考えてみましょう。」と問いかけたところ、「耕野のすばらしさを、みんなに知ってほしかった」や「耕野のすばらしさをどんどん発信してほしい」「これまでの伝統を大切にしながら、新しい耕野の文化を築いてほしい」等々の考えが発表されました。



子供たちなりに、2枚の賞状の意味と八島さんの思いをしっかりと受け止めたようです。最後にみんなで、これからも、耕野をもっともっと知り、耕野のすばらしさをたくさんの人に伝え、『ふるさと耕野』に誇りをもって、豊かに学んでいくことを誓い合いました。

八島孝男さん、貴重な賞状を見せていただき、また、「ふるさと」について考えるよい機会を作っていただき、誠にありがとうございました。

※ 明日は、校外学習で仙台NHK放送局と宮城県庁に行ってきます！あ～した天気になあれ(*´`*)



